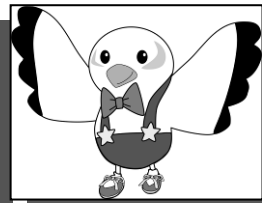


～子供に夢や感動を！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 27 年 7 月 25 日  
< 第 3 号 >  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318



東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で12年目を迎え、これまでに約1,300名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくための通信です。

## ●第4回ゼミナール

### 「教育相談の機能を生かした児童・生徒理解と保護者対応

#### ～いじめを事例とした対応に学ぶ～

6月20日(土)に第4回ゼミナール「教育相談の機能を生かした児童・生徒理解と保護者対応」を実施しました。今回のゼミナールは、講義を受けた後に事例研究及びロールプレイングを行い、具体的な児童・生徒理解の方法を学び、場面に応じた柔軟な対応力を身に付けることをねらいとしました。

講義では、いじめに関わる児童・生徒への具体的な対応の方法を中心に、担任が行う教育相談の進め方・形態・方法や保護者対応で意識することなどについて学びました。

後半は、いじめへ発展する可能性が高い事例を扱い、問題点や対応策について考え、その内容に基づいたロールプレイングを行いました。塾生は児童・生徒役、教師役、観察者に分かれ、それぞれの役割を演じた後で、その時に感じたことや気付いたことなどについて意見交換を行いました。保護者対応では、教授が保護者役になり、実際に保護者はどのようなことを相談の中で求めるのかについて、実体験を交えながら意見交換を行いました。今回の講座を通して塾生は、いじめを早期発見し早期対応するための教師の手だてや、日頃の児童・生徒理解のための具体的な方法、保護者対応の際に意識すべきことなどを学びました。

#### <塾生の感想>

- ・特別支援学校では、保護者の方との連携がより一層大切であるため、保護者との関わり方について見直していこうと思った。子供が安心して学校へ通うことができる環境づくりを考えていきたい。相談の場を特に設定していなくても、少しの時間を有効に使い、コミュニケーションをとっていこうと思う。
- ・ロールプレイングを通して、児童の気持ちや担任の気持ちになることができた。何を欲しているのかを知ることができ、実践的で勉強になった。講義を受けた後に演習をしたので、客観的に児童の気持ちや担任の気持ちを理解することができ、新しい視点をもつことができた。



—ロールプレイングの様子—

## ●第3回講義

### 「心を開いて子供に寄り添う

#### ～一人一人のよさや可能性を引き出し伸ばす～

7月4日(土)に第3回講義「心を開いて子供に寄り添う」を実施しました。明星大学の小貫悟教授を講師に招き、特別支援教育についての基礎的な知識や学級における子供たちへの適切な支援の在り方についての理解を深め、子供たちの可能性を伸ばすための具体的な方法を学びました。講義の前半部分では医学的な内容について、後半部分では具体的な場面を想定しながら、特別な支援を必要とする児童・生徒への対応の仕方について学びました。

#### <塾生の感想より>

- ・障害はその人の中にあるのではなく外にあり、周りが変わることで自然に行動できるようになるということがとても印象に残った。目立った行動に注意がいきってしまうが、その行動の前後を考えて工夫をすることで、変化をもたらすことが可能になるのだと分かった。担任としても、学級の中で一人一人の児童と向き合いながら工夫を考えなければいけないと思った。
- ・今日の講義を通して、悩んでいた特別支援教育について学ぶことができた。視覚情報と聴覚情報の2つを示すことで、認知能力の差を少しでも埋められるということが分かった。児童が「今、自分は何をしているのか」「何をすればよいのか」について分かるようにしてあげられるよう、自分も努力したい。

【連載シリーズ】

◆児童・生徒理解を図る～共感的理解と具体的なスキルの習得◆

東京教師養成塾教授 齋藤 辰雄

「あなたは知っていますか？」

警視庁の麻薬犯罪防止、薬物乱用防止ポスターにあった言葉です。薬物乱用防止を啓発するとともに、大人であれば、知らなかったでは済まされないことがあるということ強く訴えています。

この言葉を、教師の世界に当てはめてみるといかがでしょうか。知らなかったでは済まされないことがたくさんあります。例えば、自分の学級の子供をどれだけ知っているでしょうか。登校時刻前に登校してくる子は誰であるのか、また、どうして早く来るのか。休み時間、誰が誰と遊んでいるのか、どのような遊びをしているのか。さらに、子供同士の言葉遣いの実態をどれだけ理解しているのか。外履きをきちんと揃えている子は誰なのか等々。

担任は、子供の学習面や生活面、精神面等において知らないことがたくさんあります。もちろん、情報としてもっているものもたくさんありますが、子供の学校生活の状況について、いつも把握できているわけではないので、当然知らないこともたくさんあります。また、知らなくてもよい情報もあります。教師として「知らなかった」と言い訳をし、責任転嫁する態度はもってのほかですが、ここで重要なことは、知らなかったでは済まされない事柄です。教師として、子供を指導し、育てていくときに重要となる児童・生徒理解のことです。

一人一人の子供を理解しようとするとき、教師として喜びを感じる事が多くあります。「あの子にこんな面(力)があったなんて、なんて素晴らしいのでしょうか！」このような喜びを感じる事が多くあります。子供をいろいろな角度から見つめ、ありのままの子供を理解していくことは、教師の大切な資質・能力です。教師になったとき、学習指導案の作成や校務分掌等に追われてしまうことがあるかもしれません。そのような時でも子供一人一人の生活で見落とししていることがないように心掛ける事が大切です。教室の中だけではなく教室外のこと、また、教師の目の前のことだけではなく、見えないところでの子供の姿をよく見ていきましょう。そこにはたくさんの発見があります。

子供を真に理解し、伸ばし、育てていくために必要な能力が、児童・生徒理解の能力です。教師として必ず備えておかなければならない大切な能力です。児童・生徒理解の方法はたくさんありますが、その目的は子供をまっすぐに伸ばし、向上させ、生涯を通じて学び続ける心豊かでたくましい児童・生徒に育てるためです。

「教育は、児童・生徒理解に始まり、児童・生徒理解に終わりなし。」かつて、先輩教師から教えていただいた言葉です。言い訳をしない教育を実践するため、教師としてのセンスを磨いていきましょう。

【連載シリーズ 授業づくりのポイント②】

◆ねらいに即した授業づくり◆

東京教師養成塾教授 近谷 幹男

「授業は導入が勝負」などと、授業の重要性を表現する言葉が数多くあります。子供たちがめあてをもって学習に取り組むために、興味を引き付け、ポイントを明確にした授業の導入の大切さを示しています。

指導内容に応じて、授業の導入にどのようなねらいをもたせるのかをはっきりさせて、授業をつくりあげていく必要があります。授業の導入には、「本時の授業のねらいをはっきりさせる」「前時の学習との関連を意識させる」「子供の関心・意欲を高める」というようなねらいがあります。

効果的に導入を行うために、3年生の算数の授業を例に考えてみましょう。

- (1) 本時の授業のねらいをはっきりさせる導入 ⇒「今日は、昨日の続きで、3どうしの筆算を正しく計算する勉強をしましょう」と、ねらいを明らかに示し、『3けたどうしの筆算を正しく計算する』と板書をして、授業のねらいを子供たちに理解させます。
- (2) 前時の学習との関連を意識させる導入 ⇒授業のねらいを理解させた後、前時の問題(318 + 225)と本時の問題(482 + 164)を提示します。そして、「昨日の学習との違いはどこでしょうか？」という発問をします。こうすることで、子供たちは、(今日は、昨日の学習と違って十の位に繰り上がりのある筆算をするんだ。)というめあてをもちます。前時と本時の学習との関連をはっきりさせて、授業に対する目的意識を深めます
- (3) 子供の課題解決への関心・意欲を高める導入⇒課題がはっきりとしたところで、「今日の問題はできそうかな？」と投げ掛け、子供たちの「よし、やるぞ。」という解決への関心・意欲を高めます。

導入で、おはじきや数え棒を実際に数える活動や、長さやかさ、重さを測る活動、図形を描いたり、敷き詰めたりする活動、表やグラフを調べたりする活動などの算数的活動を積極的に取り入れることも、子供たちの学習への関心・意欲を高めるのに効果的です。

「授業は、最初の5分で決まる」という言葉もあります。ねらいに即した授業づくりに向けて、導入の充実を図りましょう。